

ウラミジャノメ (本土亜種)

Ypthima multistriata nipponica Murayama
チョウ目・ジャノメチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

50年以上信頼できる記録がない。

分 布

本州～九州に分布。県内ではおおい町三ッ松と遠敷郡野木村からの古い記録があるのみである。

種の特徴

小型。表は濃褐色。裏面は白い波状模様がある。後翅表面には1個、裏面には3個の眼状紋がある。成虫は年1～2回の発生。食草はヌマガヤ、ショウジョウスゲなど。農地及びその周辺、河川堤防、天然の湿地、海岸沿いの崖地、林縁部等の明るい草原に生息する。

絶滅した要因

宅地造成、道路建設、ため池や河川の改修、圃場整備等の開発による生息地の消失や、草地の管理放棄による植生変化が本種の生存に影響を与えた要因として指摘されている。

参考文献 福井県博物館 (1938)、福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、日本チョウ類保全協会 (2012)、白水 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	●	●															

ヒラサナエ

Davidius moiwanus taruii Asahina & Inoue
トンボ目・サナエトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生息地は1か所のみであり、その生息地での確認個体数は著しく減少していることから、危機的な状況にあると判断される。

分 布

富山、石川、福井、滋賀、京都、兵庫、岡山の各府県に局地的に分布。県内では、美浜町の1地点で確認されているのみ。

種の特徴

丘陵地～山地にかけての湿原を流れる細流に生息する小型のサナエトンボ。北海道～本州東北部にかけて分布する日本特産種のモイワサナエの北陸～中部亜種。幼虫期間2～3年程度(2～3年1世代)で、県内では成虫は5～7月に記録されている。

生息を脅かす要因

埋め立てや細流の護岸、周辺の落葉広葉樹の伐採が本種の生存に影響を及ぼす。湿地の乾燥化も本種の生育に脅威となる。湿地の横に掘られた側溝の埋戻しと、周辺に植林されたスギ等の間引き(日照量の確保)、湿地内の川底を湿地面まで戻すために木製の堰を多数設置する等の対策が望まれる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、尾園ら (2012)、和田・和田 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○													

オグマサナエ

Trigomphus ogumai Asahina
トンボ目・サナエトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

前回の調査時に比べ、生息確認地点数が5割以上減少し、現存する生息地でも個体数が危機的状況まで減少している。

分 布

石川県、長野県、愛知県の各県より西の本州、四国、九州にやや局所的に分布。日本特産種。県内ではこれまでにあわら市の一部と敦賀市中池見で記録がある。

種の特徴

体長47～52mm。日本に生息するコサナエ属の中で最大種。平地～丘陵地の抽水植物の繁茂する水面の開けた池沼に生息する。成虫は主に4月下旬～6月上旬に出現。幼虫期間は2年ほど。

生息を脅かす要因

あわら市の生息地の一つは、ため池の改修で失われた。現存する生息地にも、ウシガエル等の外来種が侵入し個体数が増加しており、捕食圧が心配される。コイ、ブラックバス、ライギョ等の駆除と、植林されたスギ、ヒノキの間引きによる日照量の確保等の対策が早急に望まれる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、尾園ら (2012)、和田・和田 (2006)、杉村ら (1999)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○							○				